



52年間、私たちを見守り続けてくれた 北海道百年記念塔

今度は私たちが、
百年記念塔を守る番です

北海道百年記念塔を守る会

北海道百年記念塔の解体を止める訴訟に支援を

令和4年10月、北海道議会は百年記念塔の解体を承認しました
塔を守る方法は裁判だけになりました



百年記念塔は開拓の先人への慰 霊のためにつくられました

百年記念塔は昭和45年に「開拓の先人の偉業を長く後世に顕彰し、慰霊の誠を捧げるとともに、輝く未来を創造する決意を表徴として道民の総意」をもって建立されました。建設費5億円の半額は道民の寄付に拠っています。多くの学校の校歌・校章に用いられるなど、北海道の歴史の一部となっているランドマークです。



重文にもなりうる将来世代の貴 重な建築文化遺産です

百年記念塔では道内初の設計コンペが行われ、全国299作品から今金町出身の井口健先生の作品が選ばれました。室蘭製鉄所で作られたコルテン鋼という「さびでさびを防ぐ」当時の最先端技術が用いれており、コルテン鋼による世界最大級のモニュメントの可能性がります。将来は重要文化財指定が期待されます。



「開拓」を北海道から消して「多様 性」にすぎ替えたいのです

この10年、私たち道民に断りなく道は、北海道の地域精神(アイデンティ)を「開拓者の大地」から「多様性の大地」にすぎ替えようと、各所で「開拓」の排斥をすすめています。記念塔跡地には「多様性のモニュメント」ができるそうです。記念塔とともに解体されるのは私たち道民の父祖の歴史、北海道開拓の誇りです。



百年記念塔に倒壊の危険など微 塵もありません

道は記念塔の解体理由に「老朽化」を挙げています。塔は百年耐久を条件に建設されたもので、建築専門家グループの調査でも「問題なし」と判断されています。どうしても解体したい道は「さびでさびを防ぐ」コルテン鋼の特性を悪用し、「さびだらけ」と言って老朽化を印象づけていますが、倒壊の危険は微塵もありません。



道の発表した百年記念塔の維持 費の積算根拠は不明です

「多様性のモニュメント」を建てたい道は、記念塔には今後50年間に30億円の維持管理費が必要で「将来世代の負担」と言っていますが、解体反対の声に慌てて捻り出した数字で、経費の内訳もなく、いまだに積算根拠の公開を拒んでいます。解体に世論を誘導するための「アリバイ工作」が強く疑われています。



解体差し止めを求める住民訴訟 を起こしました

百年記念塔は道が所有する道民財産であり、解体を止めることのできる道議会と知事に対して繰り返し再考を求めてきましたが、私たちの声は届かず、10月道議会で最終的に解体が承認されました。解体決定のプロセスには不明朗なことが多々あり、私たちは有権者に与えられた最後の権利として住民訴訟を起こしました。